

広島平和記念式典派遣事業を実施しました

総合政策課総務係
☎(63)2138

派遣日程 in 広島

期 日	スケジュール
1 日 目	8月5日(金) 平和記念資料館、平和記念公園、原爆ドーム等見学
2 日 目	8月6日(土) 平和記念式典参列 灯ろう流し
3 日 目	8月7日(日) 原爆の子の像に折鶴奉納 被爆体験講話学習



8月6日、広島に原爆が投下されてから77回目の夏を迎えました。今なお、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻など戦争や紛争が続いており、より「自分事」として平和の大切さについて、認識せざるを得ない状況となっております。

鹿沼市では、平成7年に「平和都市」を宣言し、その理念の下、平成9年から、市内の中学生を広島に派遣しています。

令和2・3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、派遣を中止しましたが、本年度は、20人の生徒が広島を訪れることができました。派遣団は、平和記念式典への参列などを通して、戦争の悲惨さや平和の尊さについて、学びを深めました。



▲平和記念資料館を見学

1日目

平和記念公園・平和記念資料館

はじめに、平和記念公園を見学しました。

降り立った広島のはとても暑く、原爆が投下された77年前の夏に思いを巡らせました。

平和記念公園は、爆心地に近い広島市中心部に位置し、原爆ドームや、平和記念資料館があります。

資料館の本館では、目をそらしたくなるような記録の数々が展示されており、派遣団は、このような出来事が二度と繰り返されることのないよう、改めて平和への決意を固めました。

派遣団

団長 高木 誠 (栗野中学校校長)

団員 中学校3年生 20人

東 中	福田 佑太	片倉 朱里	金林 奏汰
	倉持 紗羅	酒井 心愛	吉岡 実咲
西北 中中	豊田 主税	高橋 愛美	渡邊 琉叶
北犬飼中	渡辺 歩	増淵 僚学	
北押原中	菊地 菜央	上田 瑞希	
加蘇中	川村 誠十郎		
板荷中	大貫 葵生		
南摩中	江田 さくら		
南押原中	増山 怜紗		
栗野中	筑井 涼羽		
	萩原 歩夢	大谷木梨乃	
引率者	柏倉 寛 (北中学校教諭)		
	石川 恵 (南摩中学校教諭)		

2日目

灯ろう流し

平和記念式典が行われた日の夜に、原爆ドーム周辺で行われる灯ろう流しに参加しました。

灯ろう流しは、原爆で家族や知人を失った遺族や市民たちが追善と供養のため、手作りの灯ろうを川に流したのが始まりといわれています。

派遣団は、平和への願いを込めて、灯ろうにメッセージを書き入れました。日が暮れていく中、元安川に流れる灯ろうは、美しくも幻想的であり、派遣団は世界の恒久平和を願い、祈りを捧げました。



▲灯ろうに、平和への願いを込めました。



3日目

原爆の子の像

原爆の子の像は、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め、平和な世界を願って平和記念公園内に造られました。

この像には、世界中からたくさんの千羽鶴が捧げられ、平和を願う人々の強い思いを感じることができました。

派遣団は、市内の各中学校で折った、平和への願いが込められた千羽鶴を各中学校を代表し、原爆の子の像に捧げました。



▲原爆の子の像に千羽鶴を奉納

派遣の記録 配信中!

市ホームページで派遣の記録映像や、市長等への報告会の映像を公開しています。ぜひ、ご覧ください。



3日目

被爆体験講話学習



▲被爆体験講話に耳を傾ける中学生たち

被爆体験講話学習では、7歳のときに、爆心地から約4.1km離れた国民学校の運動場で被爆された山本玲子先生の体験談を聴きました。

原爆投下直後の悲惨な状況や、身近な人の死についての先生の話は、私たちに戦争の悲惨さや理不尽さを強く感じさせるものでした。

派遣団は、先生の話に熱心に聴き入り、質疑の時間では、多くの質問が寄せられました。

観覧 受け付け中!

「未来へ語り継ぐ戦争体験～柳田邦男と中学生の対話～」の観覧事前申し込みを受け付けています。詳しくは、市ホームページまで。



広島派遣

リーバス / 産業団地

高齢者支援センター

木づかい / 総合計画⑥

市民のひろば

フラッシュ

健康

お知らせ

企業図鑑